

速報 平成29年度全国学力・学習状況調査結果(下野市の概要)

平成29年8月30日
下野市教育委員会

平成29年度の全国学力・学習状況調査の下野市の結果(国語、算数・数学)は、全国の平均正答率と比べ、中学校の国語A問題を除き、全国平均正答率を上回る結果となりました。

平成29年4月18日(火)実施

【調査の対象】

- 小学校調査 小学校第6学年
- 中学校調査 中学校第3学年

【全国学力調査】

- 国語、算数・数学 A問題(主として「知識」に関する問題)
- 国語、算数・数学 B問題(主として「活用」に関する問題)

- ◇国語の領域(小・中) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
- ◇算数の領域(小) 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」
- ◇数学の領域(中) 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」

【全国学習状況調査(児童・生徒質問紙)】

- 質問数 小学校92問、中学校94問
- 回答方法 選択等
- 質問内容 小学校、中学校ともにほぼ同じ内容
 - 朝食 ○起床・就寝時刻 ○達成感、挑戦、長所、目標
 - テレビ・DVD、ゲーム時間 ○携帯・スマートフォンの使用時間
 - 学習時間、学習塾 ○読書時間・図書館の利用
 - 家庭でのコミュニケーション ○家族の学校行事への参加
 - 家庭学習(計画、宿題、予復習) ○学級のきまり、協力
 - 地域・社会への関心 ○新聞・ニュースの利用
 - 規範意識、人の気持ち、いじめ、人の役に立つ人間
 - 総合的な学習の時間 ○授業における発表の機会、話し合い活動
 - 授業の目標 ○振り返り活動 ○ノート、作文 ○国語の学習
 - 算数・数学の学習 ○問題の解答時間 等

【児童・生徒のデータについて】

- *下野市 市内小中学校全校のデータ
- *栃木県 公立小中学校全校のデータ
- *全 国 公立小中学校全校のデータ

平成29年度全国学力・学習状況調査(学力調査)結果

下野市と全国(公立)平均正答率との比較【H21～29全体比較】

※H23、24は抽出調査

◎大きく上回っている(5ポイント以上)

○上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ(±1ポイント未満)

▽下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

▼大きく下回っている(5ポイント以上)

小学校	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29	中学校	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29
国語A	○	○	○	▽	▽	－	○	国語A	○	○	○	○	○	○	－
国語B	○	－	○	○	－	○	○	国語B	◎	◎	◎	◎	○	◎	○
算数A	－	○	○	－	－	－	○	数学A	◎	◎	○	○	○	○	○
算数B	－	○	○	○	○	○	○	数学B	◎	◎	◎	◎	◎	○	○

全国学力調査結果 下野市と全国(公立)平均正答率との比較【H29領域別比較】

◎大きく上回っている(5ポイント以上)

○上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ(±1ポイント未満)

▽下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

▼大きく下回っている(5ポイント以上)

小学校国語	国語A	国語B	中学校国語	国語A	国語B
話すこと・聞くこと	○	○	話すこと・聞くこと	○	○
書くこと	○	○	書くこと	○	－
読むこと	○	○	読むこと	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽	▽

小学校算数	算数A	算数B	中学校数学	数学A	数学B
数と計算	○	○	数と式	－	○
量と測定	○	▽	図形	○	○
図形	－	－	関数	－	○
数量関係	○	○	資料の活用	▽	－

1 小学校の全国学力調査結果について

国語のA問題は、全ての領域で全国の平均正答率を1～2ポイント上回りました。15の設問中、13の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」問題では、5ポイント近く上回りました。

国語のB問題は、全ての領域で全国の平均正答率を3ポイント以上上回りました。9の設問全て全国の平均正答率を上回りました。なかでも「動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す」と「目的や意図に応じ、引用して書く」問題では5ポイント以上上回りました。

算数のA問題は、全ての領域で全国の平均正答率を上回りました。特に「数と計算」「量と測定」では、4ポイント程度上回っていました。15の設問中、13の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「商を分数で表すことができる」問題では全国の平均正答率を15ポイント程度上回りました。

算数のB問題は、「量と測定」と「図形」が全国の平均正答率を1～2ポイント程度下回りましたが、他の2領域は2～4ポイント程度全国の平均正答率を上回りました。11の設問中、9の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも、「2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く」問題では、7ポイント上回っていました。しかし、「仮の平均の考え方を活用して、測定値の平均を求める」問題では、5ポイント以上下回りました。

2 中学校の全国学力調査結果について

国語のA問題は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で1ポイント以上下回りましたが、他の3領域は1～3ポイント程度上回りました。32の設問中、19の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く」や「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」では、4ポイント以上上回りました。しかし、「文脈に即して漢字を正しく書く」では、15ポイント以上下回りました。

国語のB問題は、A問題と同様「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で3ポイント程度下回りました。他の3領域では全国の平均正答率を0～3ポイント程度上回りました。9の設問中、8の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも、「目的に応じて必要な情報を読み取る」では、5ポイント程度上回りました。

数学のA問題では2領域で全国の平均正答率を上回り、「図形」では4ポイント程度上回りました。しかし、「資料の活用」で1ポイント以上下回りました。36の設問中、20の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「円柱の体積を求めることができる」では9ポイント上回りました。しかし、「範囲の意味を理解している」では、5ポイント以上下回りました。

数学のB問題では、全ての領域で全国の平均正答率を上回りました。「資料の活用」を除いては3領域で3ポイント以上上回っていました。15の設問中、13の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「筋道を立てて考え、証明することができる」では7ポイント以上上回っていました。

3 小・中学校の全国学習状況調査結果について

今年度の学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果は、「1. 当てはまる」「2. どちらかといえば、当てはまる」等の肯定的な選択肢から集計しました。

小学校、中学校ともに同様の傾向が見られました。全国平均と比較するとよい傾向がありますが、県平均と比較すると、小学校では半数の46項目が下回り、中学校においては39項目が下回りました。

また、項目別に見ると「朝食摂取」「達成感」「話を最後まで聞く」「宿題をする」「学校で友達に会うのが楽しい」「学校で好きな授業がある」「学校の決まりを守る」「友達との約束を守る」「いじめはいけない」「国語の書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」等についてよい傾向が見られました。

今後、この結果を分析し、学校・家庭・地域における学習指導や生活指導の工夫改善等に生かし、児童・生徒のさらなる学力向上につなげていきたいと考えています。